

規制改革推進会議水産ワーキング・グループにおける議論の整理

平成 29 年 11 月 17 日
規制改革推進会議
水産ワーキング・グループ

水産ワーキング・グループにおいては、9月20日の第1回開催から5回にわたり、農林水産省、水産業関連事業者、関連団体等からヒアリングをし、質疑、意見交換を行った。その中で出されたテーマや観点を今後の検討のために整理したので、公表する。水産ワーキング・グループにおける議論は継続中であり、今後も、以下に示したテーマや観点到限らず、検討を進める。

< 現状認識 >

- 世界的な魚食需要の増大と人口増に伴う消費総量の増大
- 国内における少子高齢化等を背景とした魚食消費の減少
- 国内漁獲量の減少
- 高齢化する漁業就労者、若い担い手が不足する水産業の生産現場
- 高齢化する漁船、小規模・老朽化する養殖場等の設備
- 課題の多い資源管理

1. 漁業の成長産業化に向けた水産資源管理の点検

- 漁業の成長産業化のために、目標数値と時期を定めた資源回復の必要性
- 持続可能な漁業の実現に向け、アウトプットコントロールを基本に、インプットコントロール、テクニカルコントロールを最適に組み合わせた資源管理のあり方
- 国際的動向を踏まえた多様な評価手法・自主規制・行政管理のあり方

2. 水産物の流通構造の点検

- 水産物流通におけるトレーサビリティの確保、水産物の付加価値を高める取組
- マーケットインの発想による海外市場を含む需要の開拓、MSC・ASC・MEL等の認証制度の活用
- IUU漁業等の不適切な漁業への対応

3. 漁業の成長産業化と漁業者の所得向上に向けた担い手の確保や投資の充実のための環境整備

- 意欲ある担い手が円滑に漁業に参加し得る、漁業資源管理や漁業許可制度、船舶安全法等各種制度のあり方
- 航海士等の有資格者の確保と外国人材の活用
- 世界の養殖業と比較した場合の日本養殖業の制度的課題
- 養殖技術の戦略的開発と魚病への対応
- 漁協の事業、組織体制、機能、役割、ガバナンスの見直し。経営の透明性の確保
- 漁協と行政・民間企業との連携による共同事業の活性化や買参権の扱い
- 若者が生き生きと働くための現場環境のあり方